

## 第2回大崎市総合計画審議会会議録

日 時 令和3年8月13日（金） 午前10時00分～午前12時00分  
場 所 大崎市役所東庁舎5階大会議室  
出席者 會田征子委員，風見正三委員，小玉順子委員，佐々木裕子委員，青沼陽一委員，  
佐々木政直委員，阿部雅良委員，鎌田修二委員，佐々木浩治委員，畑中理一郎委員，  
星義一委員，村田秀彦委員，千葉啓治委員，佐藤仁委員，柴原一雄委員，佐藤政重委員  
欠席者 渡辺俊委員，石田政博委員，中鉢幸一委員，太田孝委員  
市出席者 伊藤市長，高橋副市長，尾松副市長，赤間総務部長兼政策推進監，  
渋谷総務部理事（財政担当），佐藤市民協働推進部長，佐藤民生部長，茂泉建設部長，  
宮川教育部長，尾形上下水道部長，中田経営管理部長  
事務局 大場市民協働推進部参事兼政策課長，高橋課長補佐，五十嵐主幹兼係長，高橋主事  
傍聴者 無し

### 概要

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

##### ○伊藤市長

- ・委員の皆様には，公私ともに大変お忙しい中，また，お盆休みの中ご出席を賜り感謝申し上げます。
- ・全国的に大雨となっており，大きな被害にならないことを念じているところである。東北地方にも，8号，9号，10号，11号と連続で台風の襲来があったが，大きな被害に至らず安堵している。近年は自然災害が頻発化，甚大化しており，しっかりと備えていかなければならないと思っている。
- ・新型コロナウイルス感染症がなかなか収束に至らず，ワクチン接種を進めているものの，全国で感染拡大が続いている状況である。宮城県も昨日，過去最大の220人の感染者となり，県・仙台市独自の緊急事態宣言，まん延防止等重点措置に向けて国と協議を開始するとのことなので，このお盆期間中も含め，感染拡大防止を市民に呼び掛けていきたいと思う。
- ・昨日の夕方，古川工業高校出身で，全日本男子バレーボール代表の藤井直伸選手が，市役所にご挨拶に来訪された。職員はもとより，市民の方々と一緒に凱旋をお迎えし，激励させていただいた。今回のオリンピックでは，29年ぶりのベスト8ということで，スポーツの力を通して国民に元気を与えていただいた選手の皆様に，改めて感謝を申し上げたいと思う。
- ・16日にはおおさき宝大使をお勤めいただいている，女子プロボクサーの藤岡奈穂子選手が，WBA女子世界フライ級で3度目の王座防衛に成功したということで，凱旋報告に来訪される予定である。もし委員の皆様でお時間のある方がいれば，9時半に市役所にお越しいただければと思う。
- ・パラリンピックを前に，15日に鹿島台で聖火の採火式が行われる。24日の開幕に向け，一体感を醸成できるよう，市民みんなで応援していきたいと思う。

- ・北海道・北東北の縄文遺跡群が、世界文化遺産に登録された。本市も、田尻で縄文文化を代表する遮光器土偶が出土し、国の重要文化財に指定されるなど、縄文文化ゆかりの地であるので、東北全体の明るい話題として連携を密にしていきたいと思います。
- ・今年は大崎市誕生15周年ということで、これまでの歩みを振り返りながら、次なる高みを目指していくこととなる。その最大の指針になる総合計画について、本日は重点プロジェクト及び基本計画の中間案をご審議いただくこととなっているので、皆様からの適切なご指導をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

#### ○風見会長

- ・お盆の入りという大変お忙しい時期にお集まりいただき、感謝申し上げます。
- ・資料に目を通したが、大崎市の美しい自然、それをベースにした文化、そこから生み出される産業、そういったものをしっかり謳い込んだ、大変意欲的な総合計画になっているのではないかと思います。特に重点プロジェクトの中の「挑む」という部分を、私は大変評価している。本日も様々なご意見をいただき、さらに磨き上げていきたいと思う。
- ・先日、宮城県議会との連携協定に基づく連携事業を開催し、宮城県議会の先生方と330名近い学生が激論を交わした。若者が政治や政策にも関心があるということと、市民がしっかりと意思表示をして一緒に未来をつくっていくことの大切さを訴えることができたのではないかと思います。その中で、持続可能な社会に向けて、自治体に対して国がどう政策の舵を切っていくのかという話をした。簡単に言うと、世界の問題を地域が解決するローカルSDGsを実施する時期に来たということである。それは大崎であれば、世界農業遺産、美しい自然に培われた地域産業、景観、そういったものをしっかりと国の政策に合わせて宣言していくということである。また、これまでは環境と経済が対立する社会であったが、これからは環境と経済が融合した新しい産業を生み出す時代となる。そうなったときに一番チャンスがあるのが、美しい自然や森林に恵まれた地方都市である。SDGsの実現により、地方が豊かになる時代が訪れるのではないかと感じている。そういったことを考えると、世界的な政策転換が行われているこの時期に総合計画の見直しができ、それを重点的に取り入れることができているということについて、まとめてくださった市の事務局、審議会の中で活発な議論をいただいている委員の皆様改めて感謝申し上げます。
- ・大崎市がこれからの10年、100年に向けて大きな舵を切る重要な機会であるということをも改めて認識し、その指針となる総合計画について本日も活発なご意見をようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

### 3 議事

#### (1) 重点プロジェクト案について

- ・資料1、2に基づき事務局より説明を行った。

#### (2) 総合計画基本計画（中間案）について

- ・資料3、4に基づき事務局より説明を行った。

○風見会長：ただいまの事務局の説明、事前に配付している資料について、お一人ずつご意見をいただきたいと思う。

○會田委員：重点プロジェクトについては、4つだったものを3つにまとめて、コンパクトでわかりやすくなったと思う。その中で、未来を担う人材育成の推進という部分が最も重要である

と考えている。各部署で取り組む際には、体験学習やボランティア等を取り入れて人材を活用したり、交流の機会を設けるため、大人向け、子ども向けの多様な講座を実施するなど、様々な事業にぜひ取り組んでいただきたい。

○小玉委員：人づくり、地域づくりという観点を重点プロジェクトに位置付けており、大変素晴らしいと思う。その中でも、持続可能という視点に立って考えると、人材育成をする地域の公民館を少しテコ入れできるようなとよろしいかと思う。地域住民の学習の場である公民館について、その機能と持続可能性を活用し、地域の課題を拾って地域の人材を育成していくことができるのではないか。生涯学習という言葉は入っているが、公民館という言葉は入っていなかったなので、ご検討いただきたい。また、職員の人材育成に関しては、コミュニケーション力と問題解決力を備えた、誰かと誰かを繋ぎ合わせる役割をする人材がこれからは必要になると思うので、そういった視点での育成が非常に重要であると思う。

○佐々木（裕）委員：資料3の4ページの主な取り組みに「健康づくりの環境整備」とあるが、「健康づくりのための社会環境の整備」とするのが国の通例となっているので、ご訂正いただきたい。また、「疾病予防、重症化予防の推進」について、「疾病予防」は「推進」で良いが、「重症化予防」については「徹底」という言葉を国では使っているので、こちらもご訂正いただきたい。それに合わせ、29ページの実現に向けての主な取り組みの「2 疾病の発症及び重症化予防の推進」についてもご訂正いただきたい。また、「5 健康相談事業や健康教育事業の推進」について、「健康教育事業」という表現は現在使われていないので、「健康推進事業」にご訂正いただきたい。

また、重点プロジェクトについて、世界農業遺産がプロジェクト1にしか反映されていないが、世界農業遺産は他の市町村にはない、大崎市が誇れるものであり、土地だけでなく、それを発信したり人に繋いだり、安全なものを食べさせたりというあらゆる分野に繋がる骨の部分だと思うので、使い方と表現の仕方をご検討いただきたい。

○青沼委員：重点プロジェクトについて、4つだったものを3つにまとめたとのことだが、前期計画の中の「④地域を支える自治組織の躍進」に係る記載が、後期計画（案）の中に見当たらない。地域コミュニティをつくっていくときには、組織や新しい拠点づくりが一番大きな課題になるかと思うので、削除した理由を伺いたい。

また、協働のまちづくりと協働教育の接点が見えない。これらは基本的には同じ視点での取り組みなので、教育委員会レベルではなく首長レベルでの協働教育やその推進のための具体的な施策等が必要かと思うが、そういった部分についてどのように考えているのか伺いたい。

○市民協働推進部参事：重点プロジェクトについては、資料1の中段にプロジェクト推進の前提として、「大崎市流地域自治組織の推進」と「話し合う協働のまちづくり（市民との協働）」と記載している。自治組織について、これまではひとつのプロジェクトとして項目立てしていたが、全体に関わる部分であり、大崎市の様々な取り組みに関しては、地域自治組織との協働、連携や話し合いの中で進めていくというのが大前提なので、そういった意味で表現の方法を変えさせていただいた。

協働教育については、地域と学校の連携が重要であると考えている。地域で活躍されている方の生の声を聞いたり、その活動と一緒に関わることで、地域を学ぶことに繋がるのではないかと思うので、地域と学校、また、保護者も含めて、みんなで協力しながら子どもたちを育てていくということが重要であると捉えている。

○佐々木（政）委員：重点プロジェクトを進めるにあたり、農業分野とグリーンインフラについてご意見を述べさせていただきたい。今年度、私の地域が田んぼダムの効果検証モデル事業の対象地域になっており、7月に台風8号が上陸した際にも、上陸の2日前に遠隔操作で一斉排水を行ったところ、増水を抑制する効果があった。将来的に大崎市で実施できる圃場があれば、しっかりと進めていただきたいと思うが、特に上流域の耕作者の方には様々な面でご協力いただかなければならないので、取り組みに対して何かしらのメリットがあれば良いかと思う。

また、スマート農業について、作業する機械が大変高価なものであり、また、圃場の上に高圧の送電線を設置してしまうとGPSが機能しないので、そういったことも配慮しながらスマート農業の推進を行っていただければと思う。

また、資料3の23ページの10年後の望ましい姿に「農地の集積が進み～展開されている。」とあるが、農業の担い手のほとんどが65歳以上であるというのが現状なので、担い手の育成、確保については、重点的に実施しながら計画を進めていただきたい。

○阿部委員：地域づくりをする際には、「1人の1歩より100人の1歩」という言葉があるように、みんなで話し合い、みんなで進めていくというのが最も重要であると思う。そのため、資料1-1の「市民協働による推進」を「話し合う市民協働による推進」とした方が、市民協働は話し合うことによって成り立つということが見える化すると思うので、ご検討いただきたい。

また、資料3の5ページの実現に向けての主な取り組みに「6 人材育成のための学習機会の提供とシステムづくり」とあるが、鹿児島県の柳谷集落のようにまちづくり塾をつくって人材を育成し、人が話し合い、同じ思いで地域を良くしていくまちづくりができれば、「ずっとおおさき・いつかはおおさき」の実現にも繋がると思うので、ご検討いただきたい。

○鎌田委員：大崎市と大崎市医師会では、様々な病気に対する健康診断や高血圧、糖尿病教室等に取り組んでおり、市民の健康づくりを通して、疾病の発症や重症化の阻止に努めていきたいと思う。また、救急医療体制については、医師会の夜間急患センター、市民病院の救命救急センターの役割分担により、体制を継続していきたいと思う。高齢者福祉の分野では、地域包括ケアシステムの各地域での取り組みに期待しているところである。地域での社会福祉については、地域ボランティア及びコーディネーターの育成支援、障がい者への育成支援等にしっかりと取り組みたい。また、子育て支援については、安心して子どもを産み、育てられる環境づくりと、子どもが健やかに育つための健康づくり、さらには、児童虐待を学校も含めた社会全体でフォロー、防止することが重要であると思う。

○佐々木（浩）委員：農業の担い手の減少が進む中で、地域間競争が激しくなっている。その競争を勝ち抜いていくためには、世界農業遺産が非常に大きな力になると思う。ただ、現状としては、まだまだ情報発信が足りていない。農協や行政、集落営農組織等、個々で様々な取り組みを行ってはいるが、重要なのは市全体としての取り組みである。横の繋がりを持ち、きちんと話し合い、ひとつになって進めていくために、行政にはその音頭を取り、具体的な場をつくっていただくとともに、より具体的な策を示していただければと思う。

○畑中委員：第5章に、生活習慣病の増加が医療費の増大にも繋がる問題となっているとの記載があるが、そういった現況を打開していくためには、第3章の分野との関りが非常に重要であると思う。22ページの10年後の望ましい姿に「各種スポーツ大会の開催による交流が図られている。」とあるが、高齢化により各地域でスポーツ大会を開催する世代がいなくなり、市

全体としてのスポーツに対する認識も足りていないのが現状である。我々や、次の世代の子どもたちの健康を支えていくために、どこでも誰でもスポーツができる環境をつくっていただきたいと思う。また、スポーツ施設の充実に加え、その有効利用を図ることも重要である。例えば、鹿島台の球場は東北本線の鹿島台駅から歩いて行けるが、公共交通機関から歩いて行ける球場は、宮城県では鹿島台の球場と宮城球場だけである。せっかくそういった宝を持っていないながら、東北本線の窓越しに見える広告がひとつもない。ちょっとしたアイデア、ちょっとした予算で、例えば大きな看板をつくって鹿島台球場で開催中の大会の広報をするだけでも大きな効果が得られるのではないか。もう少し体育施設のPRを工夫していただき、全国大会の開催や、地元から全国に通じるアスリートを育てることに繋げていただければ、10年後は非常に明るい大崎市になるのではないかと期待しているので、ご検討いただきたい。

○星委員：人口減少や高齢化は事業者にとっても大きな課題となっており、先日も事業者の方から、自分たちで何かできることはないかという相談があった。事業者も何とかして地域を活性化したいという思いを持っているので、そういったところを施策に盛り込むことが重要であると思う。

また、重点プロジェクトを見ると、市民と行政の協働が基盤になっているが、実際の取り組みとしては社会的協働の部分が大きいので、現在抱えている社会問題や環境問題、人口問題等がしっかり網羅された施策を形にしていくこと、さらには、地域住民や事業者、教育機関の視点が見える形で加えていただければ、さらに踏み込んだ施策になるのではないかと思う。

○千葉委員：地域づくりにおいては、人づくりが最も重要であると考えている。最近では各地域の子ども会がなくなってしまっているが、子ども会で地域の子どもたちが話し合う習慣があれば、大人になってからも継続して話し合う地域になるのではないか。また、子ども会をつくるための保護者の集まりができれば、保護者同士も話し合うようになるのではないか。そういったところから取り組むとともに、人を育てる場づくりについても計画に加えていただきたい。

○佐藤（仁）委員：この審議会には、市の政策に対する可否の判断という要素も含まれていると思う。時間的な制約がある中で細かいところまで議論するのは難しいかもしれないが、5年の計画期間でそれぞれの施策がどこまで進み、何が障害で、良かった点は何なのか等、市の内部で議論した内容を一部でもお示しいただければより理解できるのではないかと思うので、ご検討いただきたい。

○市民協働推進部参事：前期計画の評価検証に関しては、これまでの取り組みの進捗や達成状況、課題等について庁内で議論を行い、その中で出てきた課題を、資料1の「評価検証から出てきた5つの視点の取り組み」として整理させていただいている。計画自体は30節にわたるため、事業ごとの評価となると膨大な量になってしまうということで、資料を作ってはいるものの、審議会に提出する資料からは外させていただいている。どこまで資料をお示しできるか、事務局で整理させていただきたいと思う。

○柴原委員：文言の注釈について、CSF、CLT、実需者等、広く知れ渡っていない文言については注釈を入れた方が良いのではないかと思う。

また、この見直しのベースとなる視点として市民意識調査の満足度があるが、少子高齢化等に伴う市税の落ち込みにより自主財源が苦しくなる中で、今後行政は選択的に施策を進めていかざるを得ないということはある程度住民に納得してもらう必要があるのでは、住民納得的なものも測れると良いのではないかと思う。

また、施策を進めるにあたり、計画の精神の共有が重要である。職員の間だけでなく、指定管理者など、実際に施策を担う出口ベースで計画の精神が共有されるよう、周知等を徹底していただければと思う。

○佐藤（政）委員：新型コロナウイルス感染症対策について、基本計画の施策の背景には盛り込まれているが、世界的な重要課題であり、収束するまでまだまだ時間を要する見込みであること、また経済や市民の生活にも大きな影響が出ていること、さらにはコロナによって生活様式が大きく変わってきていることなどから、重点プロジェクトや実現に向けての主な取り組みの中に掲げて良いのではないかとと思う。

また、資料3の17ページの施策の背景について、冒頭が「後70年以上が経過し、」となっているので、「戦後70年以上が経過し、」にご訂正いただきたい。また、6行目と10行目の文頭を一字下げにご訂正いただきたい。

○村田副会長：現在、事業者の中で大きな課題となっているのが、働き方改革と生産性向上の両立、また、事業継承と働き手不足である。そういった視点も取り入れていただきたいと思う。

また、高齢者介護について、施設等のお世話にならないよう、予防して健康であるということが非常に大切な時代になると思うので、そういった介護予防の視点も取り入れていただきたいと思う。

○風見会長：一巡したが、他にご意見等がある方は。

○青沼委員：千葉委員から子ども会に関するご意見があったが、子ども会は任意団体であるため、地域によってはないところもある。少子化に伴い、自分の子ども一人だけなら親の考えで何とかやっていけるだろうという家庭が増え、各家庭の考え方が多様化しているが、そのような中で子どもが健全に生まれ育つためには、家庭教育が大変重要であると思う。資料3の20ページの実現に向けての主な取り組みに「家庭教育相談」とあるが、「相談」ではなく行政が積極的に家庭教育を「支援」するということが必要ではないか。また、ここにしか家庭教育についての記載がないので、33ページの子育て支援分野と連携して取り組んでいけるよう、文言や表現についてご検討いただきたい。「家庭が勝手な考え」ではなくて、ある程度の基本的な考え方や地域活動への参加を通じた人との関わりは必要であり、人間は一人では生きていけないということを親たちに知らせていくことが大切である。教育委員会だけではなく、民生部等と連携しながら取り組んでいかなければならないと思う。

○風見会長：他にご意見がなければ今回の審議はこの程度にとどめたいと思う。皆様からのご意見を踏まえ、次回審議会までに事務局で修正等をお願いする。

### (3) その他

- ・事務局より次回の開催日程について下記のとおり説明を行った。

日時 11月9日（火） 午前10時～

場所 大崎市役所東庁舎5階大会議室

## 4 報告事項

### (1) 住民説明懇談会、パブリックコメントの実施について

- ・資料5に基づき事務局より説明を行った。

## 5 閉会

### ○村田副会長

- ・本日は大変お忙しい中、審議会にご出席いただき、また、様々なご意見を賜り感謝申し上げます。
- ・総合計画の目標年度である令和8年度は、大崎市誕生から20年という節目の年であり、大崎市になってから生まれた子どもたちが成人を迎えることとなる。この総合計画が、大崎市としてさらに一体感を醸成できるような計画になればと期待している。
- ・総合計画が様々な計画の指針となる重要なものであるという認識の中で、委員の皆様には引き続きのご意見、ご協力をお願い申し上げ、閉会のご挨拶とさせていただきます。

以 上